

研究主題

小学校英語活動に関する研究

—小学校英語活動実施上の課題とその解決に向けた方策—

目 次

I	研究の構想	56
II	研究の背景とねらい	57
1	研究の背景	57
2	研究のねらい	57
III	研究の方法	58
1	基礎研究	58
2	調査研究	58
IV	研究の内容	58
1	基礎研究	58
2	調査研究	61
V	研究のまとめと今後の課題	77
1	課題把握のための留意事項	77
2	今後の課題	77

＜ 研究の成果と活用 ＞

1 小学校における英語活動の課題の提示

今後の小学校における英語活動の方向性を踏まえて、現在、小学校で行われている英語活動の現状から課題を6つの視点で整理した。

2 課題解決につながる事例の提示

本研究の6点の課題項目について、それぞれ解決に取り組んでいる先進的な小学校の実践事例について聞き取りを行い、各課題の解決策を提示した。

3 課題の把握と英語活動の充実

本研究で取り上げた6点の課題項目を基に、各小学校が自校の課題を把握し、実践事例の解決策を参考にすることで英語活動の充実を図ることができる。

I 研究の構想

【社会的背景】

- ・社会や経済のグローバル化の進展
- ・国際協力・国際競争の加速
- ・ICTの普及による情報の入手・発信・対話の機会の増加
- ・外国語教育の早期化

【学校の状況】

- 全国の95.8%の小学校が英語活動を実施
- ・実施時数・実施形態・実施内容は様々である。
- ・これまでの取り組みで成果を上げている学校がある。
- ・授業を行うことに不安を抱く教員もいる。

【幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）（平成20年1月）】

- ・コミュニケーション能力育成の素地づくり
- ・言語や文化に対する理解
- ・コミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- ・身近な場面における英語でのコミュニケーションの体験
- ・音声面を中心とした活動
- ・国が各学校に共通に指導する内容を提示
- ・教科とは位置付けない
- ・学級担任を中心としたALT等とのチーム・ティーチング
- ・緊密に小学校と中学校とが連携

【研究主題】小学校英語活動に関する研究

－小学校英語活動実施上の課題とその解決に向けた方策－

【研究のねらい】

英語活動を実施する上での課題を整理し、先進的に取り組む小学校の実践事例等の収集・分析を通して、実施上の課題解決を図る方策を提示し、小学校における英語活動の充実を目指す。

＜基礎研究＞

国等が示した資料や調査結果、先行研究・実践事例の分析・整理により、小学校における英語活動の実施上の課題を整理した。

【主な参考資料】

小学校英語活動実践の手引（平成13年文部科学省）
 小学校の英語教育に関する意識調査 調査報告書（平成16年文部科学省）
 小学校英語活動実施状況調査（平成18年文部科学省）
 教育課程実施状況調査（平成19年東京都教育委員会）
 東京都内13区市教育委員会が発行した英語活動に関する資料

【課題整理の手順】

- (1) 参考資料・調査結果から、課題を抽出する。
- (2) 抽出した課題について、資料や調査ごとに内容を整理する。
- (3) 中央教育審議会の審議結果や統計資料を基に課題を整理する。
- (4) 課題を整理・統合し、学校の努力や工夫で改善できる課題の視点を定める。

【課題項目】

- A 年間指導計画（年間指導計画の作成方法等）
- B 指導内容・指導方法（指導計画の立案等）
- C 教材・教具（教材・教具の作成・活用・管理等）
- D 指導体制（ALTとの連携等）
- E 校内研修（研修の実施内容・方法等）
- F 中学校との連携（具体的な連携の方法等）

＜調査研究＞

先進的な小学校（7校）に聞き取り調査や授業参観を行い、事例を分析・整理することにより、課題の解決につながる実践をまとめた。

【7校を取り上げた理由】

- (1) 英語活動の研究発表を行った小学校
- (2) 文部科学省「英語活動実践の手引」や区市町村教育委員会発行の英語活動に関する資料作成協力校
- (3) 文部科学省の英語活動等国際理解教育推進拠点校
- (4) 取り上げた課題に対して特に解決の工夫を図っている小学校

【課題解決につながる実践例】

- A 年間指導計画の作成方法
- B 授業のねらいを明確化することによる指導内容・指導方法の工夫
- C 教材・教具の活用・管理方法
- D 学級担任が中心となるALTとのチーム・ティーチングにおける役割分担
- E 模擬授業形式による研修
- F 中学校との合同授業

【研究のまとめと今後の課題】

【研究のまとめ】 英語活動を実施する上での課題を把握するための留意事項をまとめた。

【今後の課題】 (1) 英語活動の研修プログラムを開発する。(2) 英語活動の評価方法を整理する。

Ⅱ 研究の背景とねらい

1 研究の背景

グローバル化が進む現代、国際協力や国際競争、異文化との交流の機会は増え、それは個人の生活にも及んでいる。ICT（Information Communication Technology）の普及に伴い、国民が国際的な経済活動や異文化の交流にかかわる機会がますます増大することが予想される。今後、一層進展するグローバル化に対応するために、国際的なコミュニケーション能力の育成が国家戦略として必要であることが「英語が使える日本人」育成のための行動計画（平成 15 年 文部科学省）等で述べられている。

東京都教育委員会は、教育目標の基本方針 2「『豊かな個性』と『創造力』の伸長」に示している「グローバル化と情報技術革命が進む東京にあって、国際社会に生き社会の変化に対応できるよう、子供たち一人一人の思考力、判断力、表現力などの資質・能力を育成することが求められる」ことを踏まえ、「人間理解」「文化理解」「コミュニケーション能力の育成」「世界的な視野の育成」を軸とする国際理解教育を推進している。

英語は母語の異なる人々の間をつなぐ共通語として中心的な役割を果たしており、学校教育においては、国際理解教育を推進する上で、英語でコミュニケーションをする力の育成が求められている。小学校においては、平成 14 年 4 月から「総合的な学習の時間」等で、国際理解教育の一環として、英語活動を小学校で取り入れることが可能となった。平成 20 年 1 月（※1）、中央教育審議会は「コミュニケーション能力を育成するための素地づくり」、「国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解」、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」などをねらいとして小学校高学年の外国語活動を必修化することを答申した。

「小学校英語活動実施状況調査」（平成 18 年度 文部科学省）の結果によると、全国の公立小学校の 95.8%が英語活動を実施しているものの、英語活動の年間授業時間数、指導形態等については多様であり、東京都においても同様といえる。

英語活動はこれまでに各小学校で独自の工夫や取り組みがなされ、児童の英語に対する興味・関心の高まりや、児童が外国の文化や生活などに興味や関心をもつようになるなどの成果が報告されている。しかしその一方で、学校により取り組みに程度の違いがあることや、中学校の外国語科とどのように接続を図っていくか等の課題も指摘されている。

今後、新しい学習指導要領が示す小学校における外国語活動の実施に向けた取り組みが、各小学校で必要となる。

2 研究のねらい

英語活動を実施する上での課題を整理し、先進的に取り組む小学校の実践事例等の収集・分析を通して、実施上の課題解決を図る方策を提示し、小学校における英語活動の充実を目指すことを研究のねらいとした。

※1 平成 20 年 1 月、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」が示された。研究過程では、本答申は示されておらず、研究をまとめる段階でも新しい学習指導要領は告示されていないことを踏まえ、研究当初から本答申まで変更のない内容について研究をまとめた。

Ⅲ 研究の方法

1 基礎研究

これまでに国などから示された資料や調査結果、各地の先行研究、収集した実践事例等により、小学校英語活動の実施上の課題項目及び具体的な課題を整理した。

2 調査研究

基礎研究で整理した英語活動を実施する上での課題を踏まえ、すでに解決に取り組んでいる研究推進校の実践や文部科学省の英語活動推進拠点校の報告等を基に、聞き取りや授業参観を実施した。基礎研究で挙げた課題一つ一つに対して解決につながる方策を調査し分析を行った。これらの基礎研究・調査研究で得られた結果を基に、英語活動の実施上の課題の解決につながる実践をまとめた。

Ⅳ 研究の内容

1 基礎研究

(1) 中央教育審議会答申「小学校段階における外国語活動」の内容

本答申では、小学校段階における外国語活動の目標を「国語や我が国の文化を含めた言語や文化に対する理解を深める」及び「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る」としている。指導内容については、「音声面を中心とした活動を行う」及び「英語でのコミュニケーションを体験する」とし、さらに、「高学年において一定の授業時数（年間35単位時間、週1コマ相当）を確保する一方、教科とは位置付けない。」と明確な授業時数が示され、「教科のような数値による評価にはなじまない。」と評価についても一定の方向性が示された。

一方、今後の課題については「充実を図ることが必要」とした上で、指導内容については、「各学校における共通の指導内容」、指導者については、「教員研修や指導者の確保」が挙げられている。また、中学校との連携については「中学校における外国語教育への円滑な移行と、指導内容の一層の充実・改善を図ることが求められる。」としている。

各小学校は、本答申を受けて今後示される新しい学習指導要領に基づき、外国語活動の実施に向けた取り組みや準備を進めることになる。

(2) 英語活動における課題整理の方法

現行学習指導要領に基づき現在実施されている小学校における英語活動の現状と課題を把握するために、これまでに国などから示されている資料や報告書などを調査した。（表1）

これらの資料の中から英語活動の実施上の課題を抽出し、類似する課題を項目ごとに整理した。項目を整理する際は、「小

表1 課題整理のための参考資料

- 小学校英語活動実践の手引(平成13年 文部科学省)
- 小学校の英語教育に関する意識調査 調査報告書
(平成16年 文部科学省)
- 小学校における英語教育について
(平成18年 中央教育審議会 外国語専門部会)
- 小学校英語活動実施状況調査(平成18年度 文部科学省)
- 東京都教育課程実施状況調査
(平成19年11月 東京都教育委員会)
- 都内区市町村教育委員会が示した英語活動の手引きや
英語活動の指針(13区市町村)
- 「英語が使える日本人」育成のための行動計画
—文部科学省の英語教育への取組—(平成19年度 文部科学省)

学校英語活動実践の手引」に挙げられている課題項目を基に、その他の資料も参考にし、課題項目を19点に整理した。(表2)

表2 整理した19の課題項目

表1で取り上げた参考資料と表2の19点の課題項目との関係を示したものが表3である。さらに、表3の項目を、例えば「指導方法」「授業構成」「教室英語」は類似した項目として「指導方法」の一つにまとめ、「指導体制」「ALT(※2)との連携」「保護者・地域」は「指導体制」として集約するなどして、12点に再整理した。(表4)

※2 ALT Assistant Language Teacherの略。外国語指導助手。教師と協力してチーム・ティーチング(協同授業)等を行う外国人のこと。

「小学校英語活動実践の手引」に挙げられている項目	
1 目標	2 指導内容
3 指導体制	(「小学校英語活動実践の手引」では「どのような授業方法があるのか」)
4 授業時間枠の設定	
5 指導方法(同「指導上の留意点」)	
6 年間指導計画	11 授業構成
7 活動内容	12 教材・教具
8 研修	13 学校・教室環境
9 児童の評価	14 教室英語
10 ALTとの連携	
他の資料から付け加えた項目	
15 教員の英語力	
16 英語活動自体の評価	
17 中学校との連携	
18 授業時数	
19 保護者・地域	(全19項目)

表3 各資料における記載内容

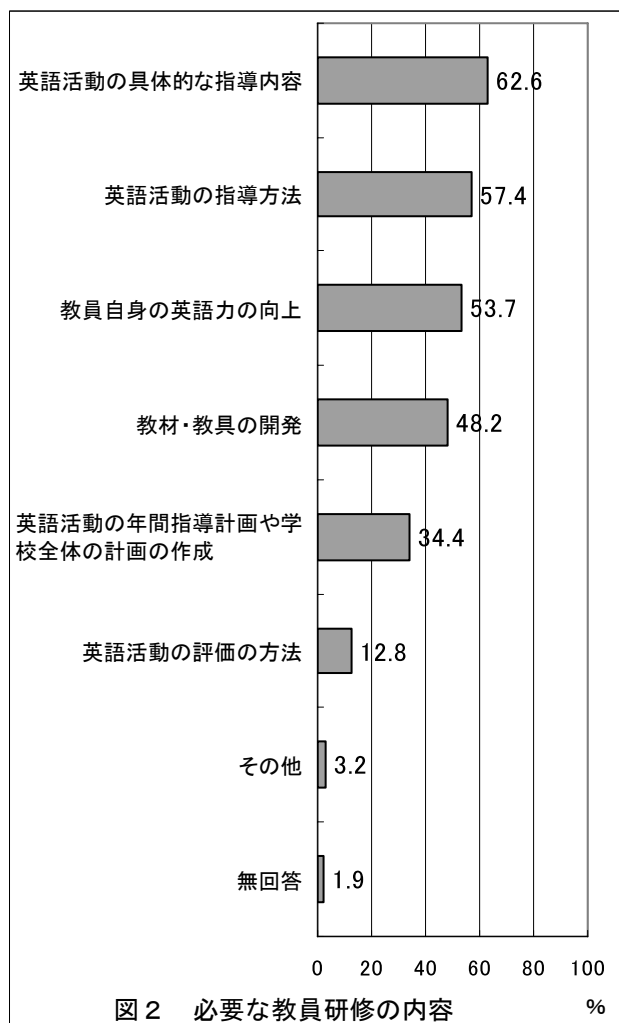
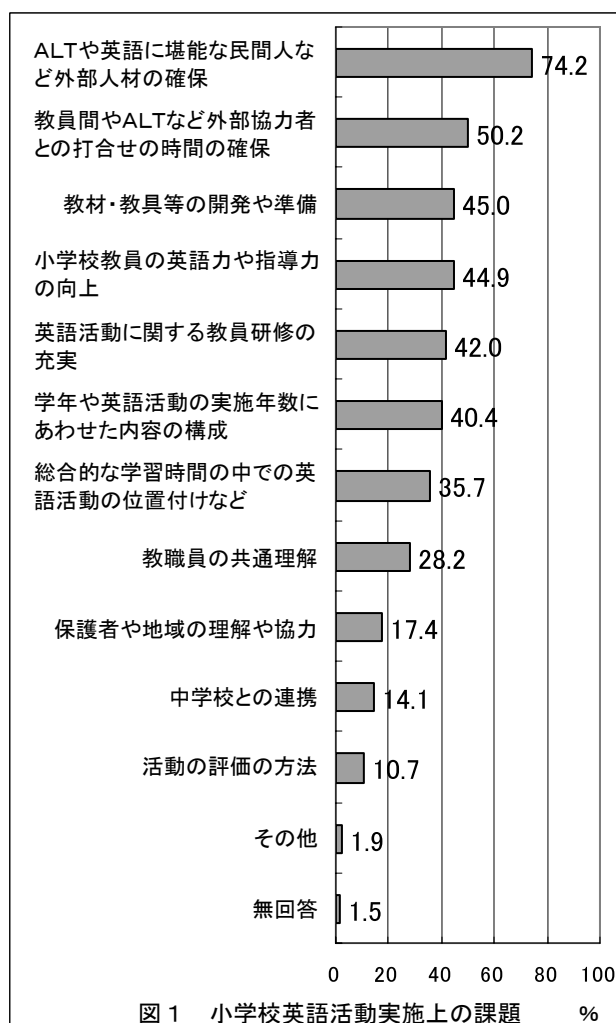
	目標	指導内容	指導体制	授業時間枠の設定	指導方法	年間指導計画
小学校英語活動の手引(平成13年文部科学省)	英語活動のねらい	どのような英語を扱うのか	どのような授業方法があるのか	授業時間枠の設定方法	指導上の留意点	年間活動計画をどう作るのか
小学校の英語活動に関する意識調査(平成16年文部科学省)調査項目	小学校での英語活動の目標	小学校での英語活動の内容	小学校での英語活動の指導者	課題項目(全19項目)		
同調査 小学校での英語活動実施上の課題(校長及び学級担任対象)回答	「総合的な学習」の中での英語活動の位置付けなど 35.7%		外部人材の確保 74.2% 打合せ時間の確保 50.2%		小学校教員の英語力や指導力の向上 44.9%	学年や英語活動の実施年数に合わせた内容の構成 40.4%
同調査 必要な教員研修の内容(校長及び学級担任対象)回答	英語活動の年間指導計画や学校全体の計画の作成 34.4%	英語活動の具体的な指導内容 62.6%			英語活動の指導方法 57.4%	
小学校における英語教育について(平成18年中教審外国語専門部会における審議の状況)	国際コミュニケーションをより重視する考え方を基本とする。	身近な言語の使用場面を設定し、英語でのコミュニケーションを体験させる。テーマにふさわしい基本的な単語や表現例を用いることにより音声面を中心としたスキルを身に付けさせることを組み合わせる。	当面は学級担任とALTや英語に堪能な地域人材等とのチーム・ティーチングを基本とする。		項目ごとの内容(空欄は該当する内容の記載がないことを示す)	
資料・調査等の名称						

表4 再整理した12点の課題項目

1 目標	2 指導内容	3 指導体制	4 指導方法	5 年間指導計画
6 教材・教具	7 研修	8 学校・教室環境	9 児童の評価	10 教員の英語力
11 英語活動自体の評価	12 中学校との連携			

この 12 点の課題項目について、次のアからエの視点を重視しながら検討し、本研究で取り上げる課題項目を絞った。

ア 小学校の英語教育に関する意識調査(平成 16 年文部科学省)での「小学校での英語活動実施上の課題」、「必要な教員の研修の内容」の質問に対する上位の回答(図 1、図 2)



(参考)小学校の英語教育に関する意識調査(平成 16 年文部科学省)

イ 小学校における外国語活動の方向性にかかわる課題 (1 基礎研究(1)参照 60 ページ)

ウ 「小学校英語活動実践の手引」等、基礎研究で活用した各種資料の内容と「小学校英語活動実施状況調査」等の同各種調査結果の関連の分析による課題(表 5)

エ 学校の努力や工夫で改善することが可能である課題

さらに、先行研究、自治体が作成した英語活動の手引き等の資料、収集した実践事例、小学校英語に関する基本調

査(平成 18 年 Benesse 教育開発センター)の調査結果等を参照し、課題の重要性を考慮し、本研究で調査する小学校英語活動の課題項目を次の 6 点に整理した。

表 5 各種資料と調査結果との関連の分析(例)

- ・小学校英語活動実践の手引では、指導内容、指導方法、教材・教具が詳述されている一方で教員はそれらについての研修の必要性を感じている。
- ・ALT の配置が求められているとともに、配置された ALT との打合せ時間の確保等の対応も課題となる。
- ・中学校との連携は、調査結果では下位の回答であるが、「小学校における外国語活動」においては大きく扱われている。
- ・英語活動を年間 35 単位時間実施している学校は少なく、実施時数を増やすための指導計画等が必要になる。

課題項目A 年間指導計画

- (課題) ○年間指導計画の作成方法
○年間指導計画における指導内容の配列

課題項目B 指導内容・指導方法

- (課題) ○具体的な指導内容・指導方法
○1 単位時間の指導計画の作成方法

課題項目C 教材・教具

- (課題) ○教材・教具の活用方法
○教材・教具の開発や準備の時間確保

課題項目D 指導体制

- (課題) ○ALTとの連携
○地域人材の確保

課題項目E 校内研修

- (課題) ○校内研修の実施方法
○研修時間の確保

課題項目F 中学校との連携

- (課題) ○具体的な連携の方法
○指導内容の接続

2 調査研究

(1) 調査の概要

基礎研究でまとめた小学校外国語活動の実施上の課題を踏まえ、都内で先進的に英語活動に取り組む学校での授業参観や上記6項目の課題解決の方策の聞き取り等を行うこととした。

調査対象校は、基礎研究で得た学校の先行研究や実践事例を基に、英語活動での研究発表を実施していること、文部科学省が発行した「小学校英語活動実践の手引」や区市町村の独自の英語活動の資料作成に協力した実績があること又は文部科学省の「小学校における英語活動等国際理解教育推進拠点校」である等の実績があること、さらに、個々の課題に対して解決の工夫をしていることが研究を通して分かった学校とした。本研究で挙げた課題に対する各学校での取り組みの工夫をしている7校の小学校(表6)から、その課題解決の方策とともに、その他の課題への対応を含め、調査を実施した。次ページに表6としてその概要をまとめた。

表6 調査した7校の英語活動の実施状況と解決のための工夫

	年間指導計画	指導内容 指導方法	教材・教具	指導体制	校内研修	中学校との 連携
区立a小学校	○高学年で年間25時間実施 ○授業に基づく指導計画の修正 ○評価方法の工夫	○コミュニケーション重視の活動 ○ねらいの明確化による指導計画の作成	○ねらいに基づく教材の作成と活用 ○教材・教具を指導計画とともにデジタルデータにして共有化	○学級担任とALTとの役割分担の明確化 ○保護者等による授業支援	○教員相互の授業参観の実施 ○活動体験型研修	○区教委による小中接続カリキュラムの作成
区立b小学校	○高学年で年間35時間実施及び別途ショートタイム実施 ○授業評価に基づく年間指導計画の修正と改善	○すすんで表現しコミュニケーションを楽しむ活動 ○指導計画のデータベース化	○指導計画と教材をパッケージ化 ○教材保管棚の設置と管理の徹底 ○イングリッシュルームの環境整備	○保護者等による授業支援 ○英語活動部会の設置	○英語活動担当者による、指導に慣れない教員への支援	○児童の英語への関心や意欲を高めることによる、中学校への接続の円滑化
区立c小学校	○高学年で年間21時間実施 ○評価方法の工夫	○コミュニケーションを楽しんで、自ら発信する活動	○教材の一括管理と共有化	○経験豊富な英語活動担当者による授業研究	○ALTを招いた小学校2校合同研修	○中学校との交流活動を推進 ○中学校との合同授業
市立e小学校	○小中一貫カリキュラム（全教科）	○授業の基本構成を共通理解した上で各教員が内容を修正	○視覚によって理解するための絵カード等の工夫、体を動かして活動するための歌やゲームの工夫	○学級担任主導を中心とするALTとのチーム・ティーチング	○小学校2校と中学校1校の合同研修会	○小学校、中学校の教員が相互に授業を参観
区立f小学校	○高学年で年間35時間実施及び別途ショートタイムの実施	○「聞く」「話す」を中心にコミュニケーションを楽しむ活動 ○授業の基本構成を決め各教員が内容を修正	○指導計画に使用教材と別途の活動例を記載	○ALT及び地域の人材や保護者の活用 ○給食時間等を活用した打合せ ○英語活動部会の設置	○授業参観 ○模擬授業 ○ゲーム体験型の研修	○中学校に入学後の英語活動がどのように役立つかを調査
市立g小学校	○高学年で年間35時間実施及び別途ショートタイムの実施	○発達段階に応じた指導計画の構成	○音声教材、映像教材の充実	○学級担任とALTの役割分担	○模擬授業による研修	○中学校の英語教員の助言を受け指導計画を立案

(2) 聞き取り内容及び授業参観についての考察

各課題に対して、聞き取りや授業参観を実施した7校での取組みの状況を整理し、分析した。その内容を基にした各課題の解決につながる工夫を以下に示す。(事例)や(方策)は具体的な記述をしたページを示している。なお、本研究で挙げた課題に対する解決方策のほかに、課題に関連して各学校で取り組んでいる工夫を(その他)として示した。

課題項目 A 年間指導計画

(課題) 年間指導計画の作成方法

- ① 年間指導計画の作成に当たっては、校内に英語活動について検討する組織をつくること、教務部と連携して、ALT等の配置を含めた時間割の作成や研修の設定を年度当初に行うことが重要である。
- ② 作成においては、区市町村教育委員会等の方針を踏まえ、学校の英語活動の目標を明確にすること、地域人材の活用状況、教材・教具の準備状況、校内研修体制、児童の実態、これまでの英語活動の成果などを考慮し、学校の実態に合った指導計画を作成することが留意事項である。
- ③ 実施時数を増やす場合、各学年、各時間の指導計画を立案すること、そのために現在の実施状況に応じて各学校で取り組みやすいことから重点的に条件を整えることが大切である。
- ④ 授業時数の確保では、15分程度のモジュールを実施することもできる。継続的に英語に触れる機会をもつことができる。

(課題) 年間指導計画における指導内容の配列 (事例1 66ページ) (事例2 67ページ)
(その他)

指導計画の電子データ化による保存及び授業実践で得られた改善点の取りまとめと改善について検討する組織と時間の設定の工夫によって、年間指導計画の改善を図っている。

課題項目 B 指導内容・指導方法

(課題) 1単位時間の指導計画の立案方法 (事例3 68ページ)

(課題) 英語活動の指導内容 (事例4 69ページ)

聞き取り等を実施した各学校の指導計画では「あいさつ」「家族」「私の好きなもの」「数」「今日の気分は」など児童にとって身近なものや事柄を題材として、ALT等の英語を聞くことや歌等による英語の音声やリズムに慣れる活動、英語でコミュニケーションをとる活動、国旗や写真、映像等の教材を活用した異なる文化の理解につながる活動が行われている。

(課題) 英語活動の指導方法

ALTとの触れ合いや英語の音声のリズム感などの新鮮な体験、ゲームによる競う楽しさ、写真や映像資料による日本の文化や習慣との違いの気付き、グループ活動や一对一の場面設定によるコミュニケーションの必要性を高めた場面設定等の方法を組み合わせることで活動意欲を高めることができる。

(その他)

- ① 全時間の指導計画を作成し、1 単位時間のねらい、指導内容、指導方法、評価の観点等を明確にすることで、個々の教員が英語活動の指導に自信がもてるようになるきっかけとする。
- ② 1 単位時間の活動の基本構成（パターン）をつくることで、児童が活動の見通しをもつことができたり、A L T との打合せ時間を短縮するなどの効果がある。
例：あいさつ→歌・チャンツ（※3）等→学習テーマ→ゲーム1→ゲーム2→まとめ→あいさつ
- ③ 毎時間の授業計画の中に、学級担任とA L T の役割、使用する教材・教具、発達段階等に応じた別の活動案等を掲載することで、教員は授業を実施しやすくなる。

課題項目 C 教材・教具

（課題）教材・教具の活用方法（方策1 70 ページ）（方策2 71 ページ）

（課題）教材・教具の開発や準備の時間確保

教材・教具の計画的な管理・整備を実施することで、作成、授業準備の負担の軽減等効率化を図ることができる。（事例5 71 ページ）

課題項目 D 指導体制

（課題）A L T との連携

- ① 学級担任が指導計画を立案することで、児童の実態を踏まえた授業になるとともに、A L T とのチーム・ティーチングに自信をもてるようになる。授業実践を重ねることで簡単な英会話を用いて授業を主導することもできる。（事例6 72 ページ）
- ② A L T への対応を工夫することで、学級担任との連携の深まり、児童との関係の深まり、A L T の個性を生かした英語活動等の学習テーマの広がりが期待できる。
（方策3 73 ページ）
- ③ 学級担任、A L T、地域協力者等の役割を明確にすることで、授業を円滑に展開できるようになる。また、学級担任の役割が明確になることで、学級担任に求められる英会話能力が明らかになり、英会話に自信がもてない教員でも安心して指導することができる。
（方策4 74 ページ）
- ④ A L T とのチーム・ティーチングが行えない場合、学級担任が指導するが、地域人材を確保する、音声教材を充実させる、校内の英語が堪能な教員とのチーム・ティーチングで授業を行うといった対策がとられている。教員の研修を充実させることや組織的に対応することが大切である。

（課題）地域人材の確保

- ① 地域人材の確保には、保護者、卒業生の保護者への依頼、近隣大学への依頼、地域に住む英語が堪能な人材への依頼等の方策がとられている。
- ② A L T と同じく、授業における役割を明確にし、授業について打合せを行うことが必要である。

※3 チャンツ シンプルな歌や文を繰り返し言うこと。リズムに乗せて言葉を学習させる指導法。

課題項目 E 校内研修

（課題）校内研修の実施方法

- ① 英語活動導入時には、英語活動で行われる歌、ゲーム等を教員が体験する演習型の研修を実施し、英語活動の指導内容を具体的に知ることが有効である。このような研修は、授業進行上の留意点や児童の気持ちを学ぶことができ、英語活動の楽しさを実感する等の効果も期待できる。外部講師を招いて校内で実施することによって、全教員が研修に参加することもできる。
- ② 教員が相互に英語活動の授業を参観することで、授業の雰囲気、ALTとのかかわり方、教材提示の方法、学級担任に求められる英会話能力及び児童の様子等も具体的に知ることができ、個々の教員の指導力向上を図ることができる。
- ③ 英語活動の指導経験が少ない学級担任を支援する校内研修の工夫をすることで、教員が自信をもって指導することも可能となる。（事例 7 74 ページ）

（課題）研修時間の確保

模擬授業形式の研修を工夫することにより、短時間で効率的な研修の運営ができる。

（事例 8 75 ページ）

（その他）

校内研修で取り上げてほしい内容を教員へのアンケートによって明確にして実施することが高い効果を上げる上では重要となる。

課題項目 F 中学校との接続

（課題）具体的な連携の方法

- ① 中学校の教員による英語活動の授業参観や英語活動の教員研修への参加等、小学校から中学校へ英語活動について情報提供を積極的に行うことで、相互の連携を推進している。
- ② 小学校の英語活動担当者と中学校の英語教員が教材情報の交換や指導内容・方法の意見交換等交流を深めることで連携を推進している。
- ③ 中学校との交流授業を実施している地区がある。児童と生徒との英語を通じた交流を設定することで、双方に英語を学ぶことへの意欲の向上が期待できる。
（事例 9 76 ページ）
- ④ 小中一貫カリキュラムを作成し、英語活動を総合的に立案することで計画的、段階的な指導を実施している。

（課題）指導内容の接続

小学校で体験した「英語を通じたコミュニケーション」との関連を図るため、中学校の外国語科（英語）での「聞く」「話す」の指導としてコミュニケーションを中心とする授業を設定したり、中学校の総合的な学習の時間にコミュニケーションを主題とした授業を行ったりという工夫が行われている。



(3) 課題解決につながる実践事例及び方策

各学校で共通して採用されている工夫や、効果の高い工夫等聞き取り内容の考察に基づき、課題解決につながる実践事例及び本研究でいくつかの事例をまとめた課題解決につながる方策を以下に示す。

課題項目 A 年間指導計画

(課題) 年間指導計画における指導内容の配列

年間指導計画における指導内容の配列方法は、大きなテーマ（インタビューをする、学校行事の紹介をする、英語でのビデオレター作成等）を設定し、そのテーマの目標を達成するために必要な会話を身に付けていく方法や、児童にとって身近な内容（家族、身の回りの品物、数の数え方等）を場面設定し、2 単位時間から 4 単位時間程度の単元として設定する方法がある。これらの方法を組み合わせて年間指導計画を作成することもできる。

事例 1 活動テーマを設定し、関連する活動を配列する指導計画

a 小学校の年間指導計画で、移動教室の際（場所は日光東照宮）、そこで観光している外国人に英語でインタビューを実施することをめあてとし、インタビューするために必要な会話や、場面による対応を組合せて指導する事例である。

インタビューに挑戦（第 6 学年 10 時間扱い）

第 9 時と第 10 時の間に移動教室での外国人へのインタビューを実践している。

時	活動内容
1	今の気分を伝え合う。 インタビューを断られた場合の会話をする。
2	自分の学校名と学年を伝える。 インタビューに応じてもらえる場合の会話をする。
3	A L T 等にインタビューする。（好きな季節）インタビューに応じてもらえる場合の会話をする。
4	A L T 等にインタビューする。（出身地）友達の頑張りを応援する話し方を知る。
5	A L T 等にインタビューする。（日本のこと）友達への励ましの話し方を知る。

時	活動内容
6	自分たちの質問を考える。 友達を励ます際の話し方を知る。
7	グループで交互にインタビューする。
8	グループで交互にインタビューする。
9	インタビューの準備をする。
◎	（移動教室でのインタビュー実践）
10	移動教室でのインタビューの報告会をする。

〈考察〉

ア コミュニケーションの体験を設定することにより、自分の言いたいことが伝わる喜び、伝える難しさを実感することができる。

イ 移動教室でのインタビューという実際の活用場面が設定されているため、会話練習を行うことの目的が明確になり活動意欲が高まるという効果がある。

ウ インタビュー内容の会話だけでなく、あいさつ、お礼、インタビューする友達への励ましなどの英語での話し方を指導することで、場面に応じた言い方の知識を増やし、英

語を話すことを通した積極的なコミュニケーションを促している。

エ 各学期に1つテーマを設定する、事例2の指導内容の配列と組み合わせて設定する方法で、年間35単位時間の指導計画を作成する。

事例2 言葉の働きや生活の場面を選択して配列する指導計画

f 小学校では、4月はあいさつ、5月は日時・天気など月別に指導する内容を設定し、2単位時間から4単位時間の指導を実施している。年間で10から12項目程度の指導内容の設定をすることにより、年間35単位時間の計画を構成することができる。

月別に指導内容を配列することにより、第5学年で体験した活動の第6学年での復習、第5学年の活動内容と第6学年の活動内容との関連の明確化を図っている。

4 月	5 月	6 月
あいさつ・紹介	日時 週 月 季節	体 天気 気分
「私の友達を紹介します」 My name is Taro. Nice to meet you. Nice to meet you, too.	「誕生日はいつですか？」 When is your birthday? My birthday is in June.	「今日の気分は？」 How do you feel today? I feel happy.
「友達に聞いてみよう」 My name is Taro. What's your name?	「私のタイムスケジュール」 What time is it now? It's 6 o'clock.	「どうしましたか？」 What's the matter?(with you?) I have a fever.

〈考察〉

ア 関連する内容の活動を繰り返すことにより、児童が話し方に慣れ自信をもつことができる。

イ 児童の自信が深まることで、活動意欲の高まりが期待できる。

ウ 同時期に使用する教材・教具が特定できるので、準備・管理がしやすい。

課題項目B 指導方法・指導内容

（課題）1 単位時間の指導計画の立案方法

授業のねらいを明確にすることで、ねらいに基づく指導内容や指導方法が明確になり、児童の変容を評価することができる。英語活動の目標を達成するためには、1単位時間の授業のねらいを明確にし、ねらいに基づく指導内容や指導方法を組合せて授業を構成することが重要である。次ページの実践事例は「ALTや友達とかかわりながらコミュニケーションをしていくことの大切さを知る。」というねらいに基づき授業を計画し、各場面で一貫した評価を行っている事例である。

事例3 1 単位時間の指導計画の立案方法

(授業のねらいを明確化することによる指導内容・指導方法の工夫)

a 小学校では、英語活動の目標を「コミュニケーションを重視した英語活動」として、英語を使ったコミュニケーション能力の向上を目指している。

本事例は第5学年の授業を参観しコミュニケーションの場面についてその様子をまとめたものである。

記号   等…コミュニケーションの場面(矢印の向きは相手を表す)

(非言語) …非言語コミュニケーションが観察された場面

授業のねらい ALTや友達とかかわりながらコミュニケーションをしていくことの大切さを知る。

活動内容	学級担任・ALTの働きかけ	児童の様子
1 あいさつ	○学級担任はALTを紹介する	学級担任・ALTとあいさつする。
2 ALTのお話タイム ○ALTが自分で考えた話を英語で話す時間。今日のトピックにつながる話をする。	○給食のメニューからクリスマスのごちそうへと話題を進める。 児童が知っている英単語や、児童にとって身近な話題で伝える。 ALTからの質問「クリスマスのごちそうは何かな。」 学級担任・ALTは、児童の動作を理解し、児童が表現したことを賞賛する。	児童全員でALTの話を聞く。 知っている英単語等をヒントにALTが話す内容を理解しようとする。 「七面鳥」と答えたかった児童が、鳥の動作をして自分の答えたいことを自らすすんで表現する。(非言語)
3 “Happy Holidays” ○ボードに掲示した絵カードを使って発音練習する。(食べ物・動物・クリスマスの絵)	○ALTは発音を聞かせる。 ○学級担任は児童の様子を観察する。児童が間違えやすい英単語と一緒に発音する。	
4 質問ゲーム ○“Happy Holidays”の絵カードを使ってQ1からQ3のやりとりをする。	○学級担任とALTで例示する。 Q1 Is this food? Is this an animal? Q2 What color is this? Q3 Please explain it by gesture. ジェスチャーで説明してください。 児童同士で会話することを伝える。	ALTが持っている絵を見てQ1・Q2に答え、Q3でジェスチャーをする。 ジェスチャーを自らすすんで積極的に行う児童が多い。(非言語)
5 推理ゲーム ○“Happy Holidays”の絵カードと同じ絵が描いてあるお面をかぶり(自分では、何をかぶっているかわからない)、質問ゲームでの会話を使って、相手の答えをヒントにしながら自分のお面の絵を当てる。	○上記Q1からQ2、Q3の順に児童同士で会話させ、絵を当てさせる。 学級担任は、相手を変えて質問することを伝える。(多くの友達とかかわらせるため) 学級担任とALTはともにゲームに参加し多くの児童と会話する。	相手を変えて積極的に会話する。 ジェスチャーを交えて活動し、自分の絵を推測することを楽しむ。(非言語)
6 英語劇「かさじぞう」 ○グループ練習 ○役ごとに分かれて、せりふや動きの練習をする。	質問に来た児童に身振り、手振りを交えて説明する。 学級担任とALTはグループの様子を見ながらアドバイスする。 学級担任とALTは各グループを見ながら工夫した表現等を賞賛する。	ALTに分からないことを質問する。 言い方や動作を相談しながら練習する。 劇中の場面の様子を考え、言い方や動きのアイデアを出す。
7 振り返り	○授業についての感想等振り返りを記述させる。	友達へのメッセージを記入する。 友達にメッセージを記入してもらう。

評価 ALTや友達とかかわりながら積極的に英語活動に取り組んでいる。

友達とコミュニケーションを図りながら、場面に応じた劇づくりをしている。

〈考察〉

- ア ALTとのコミュニケーションが中心となる場面（あいさつ、ALTのお話タイム、質問ゲーム）と児童相互の英語を使ったコミュニケーションが中心となる場面（推理ゲーム、英語劇のグループ練習、授業の振り返り）が意図的に計画され、それぞれの場面で、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める工夫がなされている。（推理ゲームでは多くの友達とかかわることが指示される等）
- イ 英語を覚えるのではなく、英語を話すことを通して、他者とコミュニケーションを図る上で大事なことを身に付けていくという授業のねらいが明確である。ジェスチャー等の非言語活動、日本語を交えた表現も「積極的に伝えようとしている」という視点で認められている。そのため、英語に苦手意識をもつ児童も積極的に授業に参加することができる。児童が安心して活動するとともに自らすすんで表現する場面が多くみられる。
- ウ 評価の観点も授業のねらいに合わせ「ALTや友達とかかわり合い」「友達とコミュニケーションを図りながら」とし、指導と評価の一体化により、観察の視点が明確になり次時への積み重ねが可能となっている。
- エ 授業のねらいに基づき、非言語での活動を含めたコミュニケーション活動を積み重ねることで、自ら主体的に表現する児童の育成がなされている。

事例4 英語活動の指導内容（異なる文化の理解のための国際交流活動の事例）

h 小学校では、英語活動で学んだ英語を実践的に活用する機会として、英国の小学校とメールやビデオレターの交換を通じた国際交流活動を行っている。

この交流活動はブリティッシュ・カウンシル（※4）の支援を受けることで実現している。ブリティッシュ・カウンシルは英国のパートナー団体と協力し、日本と英国の学校を仲介し、交流相手校の選定や翻訳等、国際交流活動における課題に対し学校への支援を行っている。

本事例では、学区域の写真を英語で説明するビデオレターを作成して、交流相手に伝えるというタスク（課題）を設定している。この写真作品は、総合的な学習の時間において「郷土」を取り上げた際に作成したもので、英語活動においては、これを世界の人たちに伝えるというコミュニケーションの機会として設定し、授業ではビデオレター作成に必要な言葉について取り上げ、ビデオレター作成時に活用できるようにしている。

交流相手校との打合せはeメールを通して行われる。担当教員間のメッセージは日英両語に翻訳されて配信されるため、言語の壁を感じることなく交流活動を運営できる。

〈考察〉

- ア 交流相手を明確にすることで、児童の「英語活動で学んだことを使ってみたい」という意欲を高めることができる。自分が話した英語が伝わる喜びや、遠く離れた英国の児童から返事（反応）があることによる気持ちの変化は、貴重な体験であり、より多くの人とかかわりたいという意欲につなげることができる。
- イ 国際交流活動は運営、継続に様々な課題や負担が生じる場合があるが、本事例のように専門の公的機関に依頼することにより、これらの課題が解消され、子供どうしの国際交流活動を実体験させることができる。

※4 ブリティッシュ・カウンシル

昭和9年に英国政府により創立され、日本では昭和35年に日英両政府間で文化協定が調印されたことによって定められた、両国の文化交流を推進するための英国の公的機関である。エリザベス二世女王陛下を総裁とし、英国外務省を通じ、英国政府の支援を受けて、世界100か国以上で活動している。

www.britishcouncil.or.jp/schools

課題項目 C 教材・教具

(課題) 教材・教具の活用方法

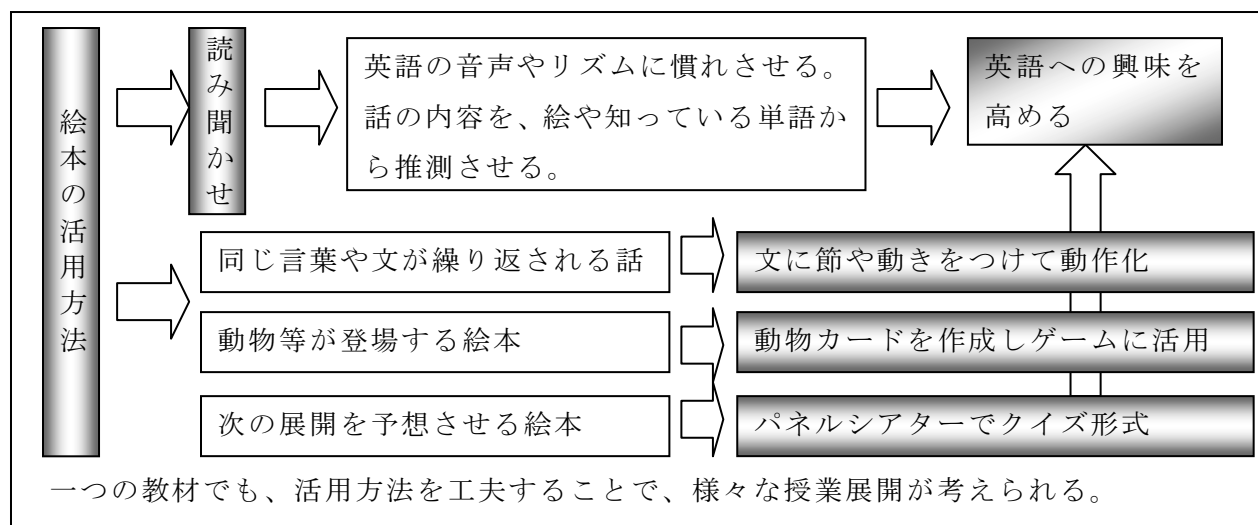
教材・教具の作成や活用にあたっては、授業のねらいや児童の実態に即していること、児童が想像力を働かせることができるものであること、様々な活動への応用性が高いこと等が大切である。授業参観や聞き取りをもとに英語活動で使用される教材の活用のねらいや効果、活用方法、入手・作成方法をまとめた。

方策 1 教材の活用のねらい・活用方法（例）

教材名	○活用のねらい・効果	◇活用方法	入手方法・作成等の留意点
フラッシュカード (掲示用 絵カード)	○新しい単語の習得場面で活用することにより音声との関連を図ることができる。 ○ゲームの進行等で児童が活動内容を理解する手がかりとさせることができる。 ○学級全体を注目させる効果をねらう。	◇絵の一部分だけ提示。一瞬だけ提示する、向きを変えて提示する、音声によるヒントと共に提示する等の工夫ができる。 ◇黒板に掲示することもできる。 ◇ゲームをするときに児童に持たせる等の活用もできる。	・単語等を学習することを目標として作られた文字や絵が描かれているカード。英語活動の場合、絵が中心となるが文字をカードの端に記入する使い方もある。 ・絵の裏にマグネットシートを付けて掲示用として使うこともできる。 ・繰り返し使用するためには、ラミネートシートで覆う方法もある。
絵カード(小)	○児童相互のコミュニケーションを図ることができる。 ○英語で会話しようとする意欲を高めることができる。	◇個々の児童に持たせる。 ◇児童に1枚から数枚のカードを持たせ、カード集めゲーム、カルタ等で使用する。 ◇一人当たり6～8枚が扱いやすい。	・フラッシュカードと同じ絵で手持ちのカードを作成するとゲーム等で活用しやすくなる。 ・色の違うカードを準備すると、活動に幅をもたせることができる。
音声教材	○英語の発音、イントネーションを聞かせる。 ○歌やチャント等リズムに合わせることで英語の話し方に慣れさせる。 ○児童の気分を英語活動に向けるきっかけにする。 ○児童を聞くことに集中させる。 ○繰り返し聞かせることで英語の音声に慣れる、話している内容の理解につなげる等の効果をねらう。	◇ALTとのティーム・ティーチングが行えない場合等様々な活用ができる。 ◇英語の音声や歌の中で聞き取れた言葉を挙げさせる、特定の単語が聞こえたら合図する、回数を数える等ゲーム的要素を取り入れて活用することができる。 ◇ゲームの開始・終了の合図や活動中の雰囲気作りに歌を聞かせることもできる。	・音声教材は市販のものも多いが、ALTの協力を得て自作することも考えられる。
映像教材	○英語への興味をもたせる。 ○音声と視覚での理解をさせる、異文化の理解につなげる等の効果をねらう。	◇英語での感情をこめた話し方を表情や動作等と合わせて見せる。 ◇外国の生活、行事の様子等の映像を見せ、文化や習慣の違い等に気付かせる。	・映像教材は様々な内容があるので、使用する授業の場面を具体的に想定すると選びやすい。
ビッグブック (大きな絵本)	○本時のテーマとなる言葉が繰り返し出てくることで、言葉の意味を推測させたり、文の中での使い方に触れさせたりすることができる。 ○児童全員に見せることができ、児童を集中させることができる。	◇ALTが読んだり、付属のCD等を用いたりする。 ◇単語を一緒に言わせながら読む、絵の中から質問を投げかけながら読む等の工夫ができる。	・大型書店でパンフレットを置いている。 ・インターネットでの注文が便利である。 ・すべての英語の絵本がビッグブックになっているわけではないので、拡大コピーしたり、実物投影機を用いてテレビに映したりすることもできる。
実物や模型	○英単語と実物とのつながりを理解させることができる。 ○児童が英語での言い方を知ろうとする意欲付けの効果をねらう。	◇「果物」等のつながりから次に出てくるものを予想させたり、ブラックボックスを使ったり等提示の仕方を工夫する。	・他教科で使用する模型の活用ができる。
ウォール チャート (掛け図)	○児童全員に見せることができ、児童を集中させることができる。 ○テーマの導入、単語の習得に効果をねらう。 ○場面で提示されている場合は話題に広がりをもたせ意欲を高めることができる。	◇絵全体を見せたり、部分的に見せたりする。 ◇掛け図の内容をストーリーにして語ることもできる。	・市販のものを活用する例が多い。 ・食卓、スーパーマーケット、家の中等様々な場面の掛け図がある。
シール	○児童の活動意欲を高める。	◇他の人と会話をしたらシールを交換する、課題を達成し各色のシールを集めるなどの意欲付けのために活用する。	・各色のシール ・ステッカー用シートを用いて印刷することもできる。
ICTの活用 (テレビ会議システム)	○英語活動で身に付けたコミュニケーションの力を実践する機会をもたせる。	◇外国の同年代の子供と触れ合うことができる。	・テレビ会議システムはインターネット環境、専用ソフト・プロジェクターで構成 ・交流相手を仲介する団体がある。

方策2 絵本の具体的活用方法(例)

教材の具体的な活用例として、授業参観及び聞き取りに基づき、英語の絵本について活用方法を示す。絵本を「読み聞かせ」に活用するだけでなく、絵本の内容を基に様々な活動につなげていく工夫例をまとめたものである。



(課題) 教材・教具の開発や準備の時間確保

英語活動担当者又は学級担任が開発・準備した教材を、一括して管理し、いつでも使える状態にしておくための工夫をすることで、授業準備の効率化や新規教材開発のための時間を確保している事例である。

事例5 教材・教具の管理についての実践事例

b 小学校では英語活動に使うための教室 (English room) が1室ある。学校の英語活動年間指導計画に基づき、毎時間の指導計画を作成し学校のパソコンに年度、学年ごとにデータベース化している。毎時間の指導計画にはその時間に使用する教材・教具が記載されている。

教材の管理方法

- 1 英語活動の指導計画に基づき、各学年、単元で使用する教材・教具を明確にし、順次作成準備する。
- 2 作成した教材は学年・単元ごとに封筒に入れパッケージ化する。(使用学年、使用単元を明記する。)
- 3 English room に教材等保管用の戸棚を設置する。学年・単元ごとに戸棚の引き出しにも表示をし、パッケージ化した教材を該当する引き出しに保管する。
- 4 学年、単元によって共有する教材は、一番下の学年のパッケージに入れる等保管ルールを作る。

学級担任の授業準備から授業実施後までの動き

- 1 学校のパソコンから前年度の指導計画を取出し、指導内容を確認し、児童の実態等を考慮し計画を改善する。記載されている使用教材・教具を確認する。
- 2 English room の教材等保管用の戸棚から該当する教材パッケージを選び確認する。他学年、別単元で共通して使用する教材がある場合は、保管してある封筒から取出し準備する。
- 3 指導計画に基づきALTと打合せをする。
- 4 授業を実施する。
- 5 授業終了後教材パッケージを所定の場所に戻す。
- 6 授業内容、教材等で修正、改善した点について指導計画に記録し、次年度に生かす。

〈考察〉

- ア 英語活動の専用教室があることは、教材・教具の管理場所が確保されているというだけでなく、掲示物による雰囲気作り、広い活動場所を常に確保できる等の長所がある。
- イ 英語活動用の戸棚等を設置し、教材をパッケージ化することで、授業準備の効率化、教材の学年、学級間での共有化等の効果があり、学級担任の負担感を軽減することにつながっている。
- ウ 教材・教具の保管場所の明確化と管理するルールの徹底により教材の散逸を防いでいる。
- エ 使用する教材・教具と実際の活動との関連を指導計画に明記することで、学級担任の授業準備の負担が軽減されるとともに、授業での活用方法を具体的にイメージすることができる。同時に授業実践に基づく指導内容や指導方法、使用教材の改善点を明確にすることができる。
- オ 英語活動担当者を中心とする英語活動部会を校務分掌に位置付けることで、教材整備計画の立案、教材管理のルール設定、保管庫の表示作成計画等を示し、全教員での組織的な管理が可能となると考えられる。
- キ 本事例では、体制づくりに2年間かけている。各学校でも、指導計画を保管し閲覧方法を工夫する等学校の実態に合わせ、中・長期的計画を立て実行していくことが大切である。

課題項目D 指導体制

（課題）A L Tとの連携

① A L Tとのティーム・ティーチングによる授業実践事例

学級担任とA L Tのティーム・ティーチングによる小学校での授業の参観記録である。

事例6 学級担任が授業を主導する英語活動実践例(第3学年)

授業の流れ	学級担任の動き	A L Tの動き
○あいさつ	・ A L Tを紹介する。 ・ 英語で簡単な問いかけをする 「It's hot today.」	・ 英語であいさつをする。 ・ 学級担任の問いかけに答え児童に質問する。
○絵本を読む Brown bear. Brown bear. What do you see.	「It's story time.」 ・ 児童が動物の名前を言えなかった時にヒントを出す。 「Is this a dog ?」	・ 絵本を読む ・ 登場する動物の英語での言い方を児童に問いかける。
○絵本に出てきた動物の英語名やALTの質問に対する答え方を練習する。 ○Brown bear チャンツ	- 動物の絵カードを掲示しA L Tと児童との会話を確認しながら登場順に並べていく ・ 児童とともにチャンツを行う。	・ 「5番目に出てきた動物は何」等の質問をする。 ・ 発声のリードをする。
○動物カード集めゲームをする。	・ ゲームの説明をする。(ゲームのルールを十分に理解させるために日本語で説明する。) ・ ゲームの開始等の合図をする。	・ ゲームの説明の補助をする。(ゲームでの英語のやりとりを学級担任との会話で示す。)
○あいさつ	A L Tと児童のあいさつを指示する。	児童とあいさつをする。

〈考察〉

- ア 児童の実態を把握している学級担任が中心となって指導計画を立案することで、児童の実態に合わせた指導内容となっている。
- イ 次の活動に進む際、学級担任が簡単な英語で児童に指示をしている。ALTが指示する場合でも、学級担任がALTに簡単な合図を送る等、学級担任の判断で授業が進行している。
- ウ ALTの話す英語を、児童が理解できず活動への意欲を低下させそうな時には、学級担任も適宜追加説明し、授業が円滑に進行するようにしている。英語活動において児童に「わからない」という不安感を与えない工夫が重要である。
- エ 授業の中で学級担任が積極的にALTとかかわることにより、児童の積極的に活動しようとする意欲を引き出している。

② ALTとのティーム・ティーチングについての改善の方策

「学級担任を中心とするティーム・ティーチング」を効果的に実施するために、各学校で実施している方策を授業参観や聞き取りをした内容からALTへの対応、授業における学級担任とALTとの役割分担についてまとめた。

方策3 ALTへの対応についての各学校の留意点や工夫

ア ALTへの対応

- (ア) 積極的に話しかける等、ALTとのコミュニケーションを深める。(学級担任の英語力向上につながる可能性もある。)
- (イ) ALTの趣味、特技等を授業で生かすような授業展開の工夫をする。(音楽、スポーツ等)
- (ウ) 学校行事に招待する。(ALTとの契約内容により実施できない場合もある。)
- (エ) 休み時間・給食の時間等での児童、教員との交流を促す。(ALTとの契約内容により実施できない場合もある。)
- (オ) 文化・習慣の違いによる配慮事項を確認しておく。

イ ALTとの打合せの効率化

- (ア) 電話、電子メールでの打合せ
- (イ) 指導計画の事前送付
- (ウ) 授業の基本構成(パターン)を決めることでの打合せ内容の削減
- (エ) 英語活動連絡ノートの活用(授業実施後気づいたこと、次時へ向けて伝えたいことを記入し学級担任、ALTで交換し合う。)

業者委託の場合、日本語の指導計画の英訳や、ALTへの連絡、調整等を業者が実施する場合もあり、このような契約であれば、学校の負担は軽減される。

方策４ 授業における学級担任とALTとの役割分担（例）

チーム・ティーチングでの学級担任の役割	チーム・ティーチングでのALTの役割
○ 指導計画の立案 ○ ALTや児童に指示を出し、学級を掌握し授業を進行する。 ○ 児童のつまずきに適切な支援を行う。 ○ ALTと児童との意思疎通を円滑にする。 ○ 消極的な児童等授業の中で配慮すべき児童への支援をする。 ○ ALTとの会話を例示することで児童にとっての学習モデルとなる。	○ 英語でのゲーム等の説明 ○ 学級担任の授業進行を助ける。 ○ 英語の音声やリズムを児童に聞かせるモデルとなる。 ○ 出身国や出身地域の習慣や文化を児童に伝える。

課題項目E 校内研修

（課題）校内研修の実施方法

校内研修の方法は、教員が指導方法や教材の活用方法を体験する演習形式の研修や、模擬授業形式の研修や教員相互の授業観察等様々である。ここでは、授業観察による研修を通して教員の指導力向上に組織的に取り組んでいる事例を取り上げる。

事例7 授業観察による研修

ｂ 小学校の英語活動の指導経験が少ない教員に対する指導力向上のための研修体制についての事例である。

段階1	英語活動主任等（英語活動の指導経験の豊富な教員）の授業を観察する
段階2	英語活動主任等とのチーム・ティーチングでの授業実践（T1は英語活動主任が務める。ALTがいる場合、研修対象者はT3）
段階3	英語活動主任等とのチーム・ティーチングでの授業実践（英語活動主任がT2又はT3）
段階4	授業実践の公開（校内教員による授業観察）
工夫	・ 時間確保のための時間割の調整 ・ 校内英語活動部会による支援

〈考察〉

ア 授業を数多く見る機会を整備し、校内全体での支援体制を構築することで、教員一人一人の英語活動の指導力を高めることにつなげている。

イ 指導力向上のために段階をつけることで、研修の対象となる教員が負担を感じない配慮がなされている。

ウ 段階4での授業観察では、ALTとのかかわり方やゲームの進め方などを具体的にアドバイスしている。授業観察の視点を定めて話題に共通性をもたせることも有効である。

エ 本事例は指導経験が少ない教員の研修であるが、日常的に相互に授業観察をすることは英語活動の指導力向上のために有効な手段である。

（課題） 研修時間の確保

以下に示す模擬授業形式の研修の一部分を実施することで、短時間で効率的に研修を実施することができる。

事例 8 模擬授業形式による研修

g 小学校は、年間指導計画とともに各回の授業計画も作成している。模擬授業は実際に授業をする授業計画や教材を使って実施している。

実施手順は以下のとおりである。

- 1 英語活動担当者は模擬授業の設定場面やテーマ、担当者等を周知する。
- 2 教員は自分の担当場面の模擬授業のための準備をする。
- 3 教員は授業者役と児童役に分かれる。
- 4 授業者役は授業計画の自分の分担箇所について模擬授業をする。1 人 5 分から 1 0 分程度模擬授業をする。
- 5 一人の模擬授業が終わったら、研修参加教員全員で、指導のよさ、改善点について検討する。
- 6 次の担当者が模擬授業を 5 分から 1 0 分程度行い、終了後検討をする。以下繰り返す。



模擬授業形式の研修（例）

時間	１単位時間の授業展開に合わせた進め方	同じ内容を多様な指導方法で展開する進め方
5 分	A 教諭による「歌・チャンツ」の模擬授業	「物語の時間」の模擬授業 A 教諭による音声教材を使用した授業展開
10 分	内容検討	内容検討
5 分	B 教諭による「お話の時間」の模擬授業	「物語の時間」の模擬授業 B 教諭によるリズムボックスを使用した授業展開
10 分	短時間で研修を実施する場合は、場面を限定して模擬授業と検討を行う。	内容検討
5 分	C 教諭による「ゲーム 1」の模擬授業	「物語の時間」の模擬授業 C 教諭による動作化を取り入れた授業展開
10 分	内容検討	内容検討
5 分	D 教諭による「ゲーム 2」の模擬授業	「物語の時間」の模擬授業 D 教諭による暗唱を取り入れた授業展開
10 分	内容検討	内容検討
効果	授業の進め方を確認するときには有効な方法である。	多様な指導方法を知るときには有効である。 新たな指導方法を習得するときには有効な方法である。

〈考察〉

ア 短時間で多くの指導方法を知り、課題を把握し解決策を見いだすことができる等、効率的に研修を行うことができる。

イ 多くの教員が自分の実践を提供することで、様々な指導方法を知ることができる。

ウ 他の教員から意見をもらうことで、自分の実践を見直す機会となり、個々の教員の指導力の向上が期待できる。指導技術の高い教員の指導の工夫を学校内で共有化できる。

課題項目 F 中学校との連携

(課題) 連携の具体的な方法

ここでは、連携の具体例として交流活動を取り上げる。交流活動の実施に当たっては、指導計画を作成する段階で十分に打合せを行うことが重要である。そこで小学生と中学生とのコミュニケーション力の育成をねらいとした授業での学習指導案の作成事例を基に、連携の視点を考察する。

事例 9 小学校と中学校との交流活動における学習指導案事例

c 小学校、d 小学校の地区では、自治体の制度として隣接する小学校と中学校をグループ化して、各教科等での連携を推進している。小学校の英語活動と中学校の外国語科では、「交流活動」にポイントを絞り、英語によるコミュニケーション力の育成を図っている。

英語活動・英語科学習指導案

活動名 「いくつ？」

目標 (小学生) ゲームやコミュニケーションを楽しみながら、自分のことを英語で伝える。

(中学生) 慣れ親しんだ英語を使って、相手の思いを大切にし、積極的に、英語によるコミュニケーションを楽しむ。

言語材料 How many (brothers, sisters, dogs, cats ...) do you have ?

目標について

(前略) 小学生は、中学生との交流を通して「伝わる楽しさを味わう」という観点から、中学生は、小学生との交流を通して自分のことを伝えたり、相手のことを理解しようとしたりするなど「積極的なコミュニケーションを図る」という観点から本授業を計画した。

小学生と中学生の目標についてコミュニケーションを中心とすることを明確にしている。

本時の流れ

児童・生徒の活動	○教師の支援 ☆小学生の評価 ★中学生の評価
1 あいさつをする。	○気持ちよくあいさつをし、楽しい雰囲気をつくる。 ○小・中学校の先生を紹介する。
2 ペアをつくる。 Let's make pairs ! Find students with the same cards. S(中学生):Hello, nice to meet you. C(小学生):Hello, nice to meet you, too. S: How many apples do you have ? C: Two . / Four. S: Oh, the same! Let's sit down. / Bye.	○フルーツカードを一人に1枚ずつ配る。 ○ALTとやり方の説明をする。 ○BGMを流し、楽しい雰囲気をつくる。 ☆大きな声ではっきりと発話している。 ★(話すこと・・・表現) 小学生が分かるように、英語で自分の意志を伝えている。
3 インタビューをし合う。 S:What's your name ? C:My name is ~. S:How many () do you have ? C:One . / None.	○インタビューしたことをカードに英語(中学生)・日本語(小学生)で書く。(中学生からインタビューする。) ☆聞いている内容をおおまかに理解している。 ★(話すこと・聞くこと…関心・意欲・態度) 積極的に英語を使おうとしている。

小学生と中学生が積極的に話をする場面が意図的に計画されている。

小学生の評価・中学校の評価についてそれぞれ記入している。

小学生と中学校との会話例を詳しく記入している。

〈考察〉

- ア 小学校と中学校が共通の学習指導案を作成し、交流活動を実施するまでに至る背景は、自治体の制度に基づき、小学校、中学校がグループ化され、英語だけでなく様々な教育活動において日常的な交流が促進されていること、学校経営方針に位置付けられていること及び教員同士の交流があることの3点が重要である。
- イ 連携の取組みとして小学校の英語活動担当者と中学校の英語教員が交流し、相談し合える関係を作ることから始めている。その後、教材情報の交換、英語活動での教材製作のために中学校の英語教員に翻訳を依頼する等、校種を越えた教員間のつながりを徐々に深めている。
- ウ 指導者間の連携を十分に図った上で児童・生徒の連携を実施することにより、交流授業が円滑に実施できるようになる。本事例では5年間の取組みがなされている。
- エ 児童・生徒に、合同で活動することへの満足感や英語活動や英語学習に積極的に取り組むことへの必要性を感じさせるよう計画することで、意欲の向上につなげようとしている。
- オ 授業後の児童・生徒の感想では、小学生は中学生が英語を話したり、書いたりすることに対してあこがれを抱いており、中学生は、小学生をリードすることでの英語学習への必要感の高まりや満足感の高まりを挙げていた。学習したことを活用する場面が設定されていることがこれらの成果につながっていると考えられる。

V 研究のまとめと今後の課題

1 課題把握のための留意事項

英語活動に先進的に取り組む学校の実践事例から、小学校における外国語活動の必修化に向けて、今後、学校が取り組む内容は、

- (1) 自校の推進上の課題を把握すること、
- (2) 課題解決のために組織をつくり、学校全体で取り組んでいくこと、
- (3) 教員一人一人が英語活動に関する授業力を向上させるための校内研修の充実が重要であることの3点にまとめることができる。

このことを踏まえ、基礎研究による課題の整理、調査研究による課題解決につながる実践事例の分析・整理を基に、英語活動の「課題把握のための留意事項」をまとめた。(表7) 本研究で取り上げた6点の課題項目について、先進校が実施している課題解決の実践事例を参考に整理したものであり、各学校が今後、英語活動を推進する際の手掛かりとして活用できるものと考えた。

2 今後の課題

今後は、小学校における外国語活動の実施を視野に入れ、英語活動の研修プログラムを開発すること及び英語活動の評価方法を整理することが課題となる。



表 7 英語活動の「課題把握のための留意事項」

課題項目		留意事項	チェック
課題項目 A	年間指導計画	英語活動を推進する組織があり、企画・運営の推進役が決まっている。	
		行事や身近な内容などを考慮して配列した年間指導計画がある。	
		年間指導計画に基づいた各学年・各時間の指導計画がある。	
		必要に応じて 1 単位時間を弾力的に運用して時間割を作成している。	
		定期的に、授業実践に基づき年間指導計画の見直しや修正を行っている。	
課題項目 B	指導内容・指導方法	指導内容や指導方法は、明確なねらいに基づいて検討している。	
		「聞く」「話す」を中心にコミュニケーションを楽しむことのできる活動内容になっている。	
		言語や文化に対する理解が深まる活動内容になっている。	
		児童が活動する時間を多く設定している。	
		発達段階に応じた指導内容や指導方法を工夫している。	
課題項目 C	教材・教具	教材・教具は、児童の実態に適したものを使用している。	
		教材・教具の保管場所を決め、教師が教材・教具を共有できるようにしている。	
		指導計画に即した教材・教具を準備している。	
		教材・教具を効果的に活用する方法を教員が理解している。	
		教材・教具の補修や改良を行っている。	
課題項目 D	指導体制	教員同士が授業の計画や実施等で協力し合う指導体制が整っている。	
		A L T とのチーム・ティーチングが行えない場合の指導体制が整っている。	
		授業における学級担任と A L T との役割分担が明確になっている。	
		学級担任と A L T が授業の前後に打ち合わせをする機会を設定している。	
		保護者や地域の人材の有効活用を図っている。	
課題項目 E	校内研修	英語活動に関する研修組織をつくり、研修計画を立てている。	
		英語活動にかかわる研修を様々な形態で実施している。	
		職員打合せ等の機会を利用して短時間に行う研修プログラムを工夫している。	
		教員同士が授業を参観し合う機会を設定している。	
		英語活動の授業研究を実施し、講師から指導・助言を受ける機会を設けている。	
課題項目 F	中学校との連携	小学校の教員が中学校の外国語科（英語）の学習内容に触れる機会がある。	
		中学校の英語教員から協力を得る機会を設定している。	
		体験入学等の機会に児童が中学校の外国語科について触れるようにしている。	
		英語活動の内容や児童の様子を中学校に知らせている。	
		英語活動を学んだ経験のある中学生の状況について情報を得る機会がある。	